

駅舎立ち寄り日本鉄道つたい歩き旅

宗谷本線(稚内＝和寒:223.1km)8泊9日の旅Ⅱ

1973年卒(数学専攻) 檜原 勉

<3日目> 6月22日(月)雨

夏至の日、6時前に起床。ホテルロビーで朝食。7時25分頃、ホテルチェックアウト。切符は7時35分頃から発売。運賃は南稚内まで3,670円であった。



名寄駅

名寄発7時50分の電車で南稚内駅を目指す。本日、7時49分発の快速で旭川に向かうという年配の女性と名寄駅舎内で世間話をする。「神奈川から土曜日やって来て、昨日は和寒から名寄まで歩いた。そして、これから稚内から名寄まで歩く」旨を話すと驚いていた。「頑張ってください」と激励を受ける。

名寄駅で沢山の高校生が下車。名寄駅を過ぎると、山間が続く。特急停車駅でもある美深駅でかなりの乗客数が下りる。音威子府(おといねっふ)駅で数人の乗客が下り、乗車は私だけとなる。この駅(到着は8時52分)で28分の待ち時間がある。この時間を利用し、駅舎の周りの風景を写真に収める。先日のタクシー運転手のお話等によると、この辺りから風景が変わるとのことであった。

音威子府駅を過ぎると、天塩川に沿って暫く鉄道が続く。天塩川に沿って山々が続く。しかし、木々にそれ程急激な変化は感じられなかった。停車しない駅があった。糠南(ぬかなん)駅、安牛駅、南幌延駅、そして上幌延駅。幌延駅には10時30分到着。雨でホームがぬれていた。ここで15分の待ち合わせがある。豊富駅から数人の乗客

が乗車。この駅から風景が急に変わる。牧草のロールや牛を窓から観察。湿原が多くなり、高い木々が姿を消す。明日、踏破する徳満駅、兜沼駅、勇知駅、抜海駅そして南稚内駅と窓から道筋を確認する。難しいようなコースであった。南稚内駅には11時51分到着。小雨が降り続いていた。

12時頃、駅前にあるホテル宗谷に立ち寄り、リュックサックを預けると同時に宅急便で送った山崎さん用手土産をもらい、2.7km先の稚内駅を目指す。雨のせいか、歩き当初、数十年前に痛めた左肘に少し痛みが出て、不安なスタートとなる。途中、12時35分、波止場横丁にある「北の香り」で塩ラーメンと餃子を。女将さんと常連の方に今回の旅行の件を話す。ここでも「驚きと凄い」のメッセージがある。この店で20分位、食事をしながら雑談し、稚内駅を目指す。少し温まったのか、左膝の痛みは解消し安堵。駅には13時12分到着。駅前で感無量の思いで種々のアングルで稚内駅をデジカメに収める。学生時代の遠い昔が若干蘇る。同時に年月の速さを痛感。

13時半頃、山崎さんに電話する。「午後は仕事を止めたので、15分位すればそちらに向かいます」との連絡を頂く。そして、山崎さんに車で宗谷岬界隈の観光地を先ず案内頂く。日本最北端の地、宗谷岬前(14時30分)で2ショット記念写真を撮ってもらう。隣の間宮林蔵前では単独で。



次に稚内ロータリークラブ(15 時 46 分)に立ち寄り、お茶をご馳走になる。稚内市北方記念館(16 時 30 分)を観光。当時の稚内と樺太との状況、9 人の乙女の写真、伊能大図(北海道部分)、鹿、熊のはく製等…。非常に勉強をさせられた。この塔は当時 100m の高さにしようと計画したらしいが、風の影響等から 80m 位の高さに留めたとの話を山崎さんから伺いする。



稚内市北方記念館にて

この記念館でも事務室に立ち寄り、コーヒーをご馳走になる。この記念館で 30~40 分滞在。次は数分先のノシャップ岬を案内頂く。移動中、ロシア語と英語の相違点を教わる。英語の S がロシア語では C、N が H…。英字をひっくり返したような活字もある。結構、稚内はロシア人が多いとのこと。牧草を包むロールについても教示頂く。利尻富士は抜海から見る風景が一番綺麗とのこと。大手コンビニは名寄まで。名寄を過ぎると運送費等の関係でコスト高になる。それ故、代わりにセイコーマートがある。等々…。九人の乙女の像、ノシャップ岬(17 時 3 分)等で記念写真。途中、南極大陸で話題となった太郎・次郎の銅像もあった。この後は、抜海に向かいアザラシ館を案内頂くが生憎、数年前に閉館になっていた。残念。そして、宗谷ホテルに 17 時 40 分頃送って頂く。18 時半、ホテル前で夕食のため再度待ち合わせということで別れる。この時間を利用し、湯船に入る。

18 時半、山崎さんに迎えに来てもらい、妹さん達(弘子さん、啓子さん)と一緒に全日空会館でご馳走になる。あっという間に楽しい 2 時間位が過ぎ

去る。9 時半頃、車でホテルまで送って頂く。本日は、R ひやく会の木内さんのお蔭で、稚内在住の山崎ファミリーにお世話になり感無量。いい思い出の一頁となった。明日からは、南稚内から名寄までのスリル満点のジョギングとウォーキングの旅が始まる。同時に楽しみでもある。そういうことを考えて就寝。



ロシア語で表示

<4日目> 6月23日(火)曇り/晴れ

3 時前に起床。3 時半ホテルから数分先のセイコーマートに訪問。そして、朝と昼用のむすびやパン等を購入。沿線にはコンビニがないと思われるため、昼食を用意。912 円要する。3 時半と早かったが、稚内では辺りは少し明るくなりかけていた。山崎さんの言葉を思い出す。

初めて、新調したジョギングウェアに袖を通す。アンダーシャツを半袖にするか長袖するかを迷ったが、半袖とする。そして、ジョギング用のショルダーバッグを。念のため、長袖を持参する。予報から雨は降らないと判断し、傘は用意せず。Ipod も何処かのポケットに入れるが、何処かで紛失。未だにどこでロストしたのか不明。正に不思議なメードラマであった。

体調を万全に整え、5 時 20 分頃ホテルを出るが、駅舎には入れず。それ故、再度ホテルに戻り、ロビーで新聞を。電車は 6 時 8 分の 1 本の電車しかないで、ホテルから 1 分のところであるが慎重となる。5 時 35 分、ホテルを出て、南稚内駅へ。切符の発売はしておらず待たされる。駅舎の中で、宗

谷本線や天北線の主要な駅舎の写真があったので観察。そして、昭和 56 年当時と現在の JR 路線図を。30%位廃線の箇所があり、寂しい気持ちになる。鉄道は地元市民のあしであり、採算だけでは割り切れないところがあるような気がする。地方の過疎化の速度を少しでも抑制するためにも。南稚内 6 時 8 分の列車で豊富駅に移動。運賃は 840 円要する。列車は湿原の中を駆け巡る。非常に神秘的な風景であった。

豊富駅には 6 時 52 分到着。駅前で明日から宿泊する松屋旅館があったので、夕食のお願いもあるので立ち寄る。しかし、私の名前は記録簿にはなく、ビックリ。メモを取り出し、1 月末に予約した旨と予約の窓口の方は伊勢さんと申し上げる。「それは私です。ご主人から角部屋が空いているだろう」と、応対があり安堵。名寄から稚内まで、泊まる宿が少ない。それ故、もし松屋旅館が NG であれば、旅行計画が大幅に狂ってします。非常に焦燥した瞬間であった。同時に安堵した瞬間であった。コンビニも近くにあるとのことであった。朝食は 7 時からのことで、ダメ。取りあえず、明日の夕食をお願いしこの旅館を後にする。

走りは 7 時頃から。ところが走ろうとした瞬間、ポツリの雨を感じ、パニック状態になる。コンビニを探そうとすると見つからず。往来の人に聞こうとするが見当たらず。運よく、JA のシャッターを開けている方にコンビニの場所を聞くことができ安堵。ジョギングで国道 40 号線にあるセイコーマートに向かう。ところが、傘は売り切れとのこと。がっかりしてコンビニを後にする。もしかすると、カッパはあるかも知れないと思い、再度、コンビニに戻り問い合わせがこちらの方もなし。それ故、天気予報を信じ、「いずれ止むだろう」の神頼みの心境で、5 km 先の徳満駅に向けて走り出す。7 時 15 分頃であった。7 時 34 分、旭川から 214 km 地点で、左手に利尻富士をキャッチ。これから、利尻富士を見ながらのジョギングとなる。

国道に徳満駅はあるが中々到達せず。7 時 40 分

頃、精神的にも落ち着き Ipod でも聞こうとするが、なし。この時はホテルに置き忘れてきたのだろうと解釈。それ故、音楽なしのジョギングとウォーキングとなる。やっとのことで、7 時 51 分徳満駅に到着。駅前には、民家もあった。8 時 22 分、辻牧場前を通過。8 時 27 分、旭川から 219 km 地点に達する。8 時 42 分、稚内まで 29 km 地点に到達。8 時 52 分、旭川まで 222 km 地点通過。記録をメモしながらのジョギングは結構大変。9 時 4 分、サロベツファームあり。9 時 8 分、国道 40 号線から左折し 1118 号線に入る。

ロール施設 間もなく兜沼方向へ
その先に赤い橋の芦川橋(無名川)があった。本日は万歩計を所持せず。それ故、この川幅を計れず。この辺りは利尻礼文サロベツ国立公園であった。それ故、これまで本州等では見られない神秘的な風景が辺り一面広がっていた。9 時 21 分、歩数でカウントした佐呂別川を渡る。9 時 50 分、やっとのことで兜沼駅に到着。途中、兜沼公園やキャンプ場の案内板があった。近くには結構民家があった。駅の向こうには兜沼があった。駅前で宅急便の女性ドライバーに勇知駅方面を聞く。「真っ直ぐ進めば行けます。凄いですね」と励ましの言葉を頂く。10 時 16 分、豊富町から稚内市に入る。稚内市のマークには利尻富士があった。10 時 38 分、勇知駅への分岐点に到着。



勇知駅から眺む利尻富士

10 時 40 分、牧草を包んだトラックと対面。トラックの荷物の紐を点検していた。10 時 50 分、高台から利尻富士の素晴らしい光景をゲット。この辺りが、営業キロ 8,000 km の通過点であろう。10 時 54 分(勇知連

絡道踏切)、11時2分の2回踏切を横切り、勇知駅(11時11分)へ。駅舎は電車の車両を改善した駅舎。この種の駅舎は、安牛駅、問寒別駅、下沼駅等でみられた。この駅で平成12年5月から始めた鉄道つたい歩きの営業キロが、8,000kmを突破。記念すべき駅となった。なお、7,500kmは宗谷本線の蘭留駅。駅前には上勇知診療所があった。郵便局もあり。本日のコースの中では、民家の多い駅前であった。

11時25分、勇栄橋(十四線沢川)を渡る。11時34分、牧場で乳牛を見る。青々とした牧草を美味しく食べている牛もいれば、ゆったり休んでいる牛も。このような長閑な光景を見ると、数十年前の両親の姿を思い出す。同時に白黒のまだら模様の愛犬セブンを。11時40分、稚内20km、抜海7kmの道路標識前を通過。近くに、「Kaayami Farm」(ゆうち自然学校)があった。11時43分、勇知跨線橋を越え、鉄道の左側となる。この辺りから山間で坂道が続く。背負ったバックのズグが「チリンチリン」と鳴り響く。ウォーキング時では余り鳴らないが、ジョギングになると効果倍増。このズグもロストするため、最初で最後の体験となった。恰もトナカイのサンタクロースのような心境。

11時58分、大野牧場前を通過。沢山の乳牛がゆったりとした大地に横たわっていた。牧場には沢山のロールが横たわり牧草を乾燥させていた。ここで乾燥された牧草は、冬場の牛の餌として活用



牧場地帯

されるとのこと。12時16分、鉄道が左手にあった。

カラスの鳴き声を耳にする。ここから、抜海駅まで鉄道に沿って歩くこととなる。この辺りから、曇り空から晴れとなる。それ故、若干暑さを感じる。でも、心地よい風でジョギングとしては最高の環境。12時46分、オスの牛と対面。メスの牛とは多少顔つきが違っていた。

抜海駅に13時2分到着。抜海駅前は、民家は数軒で閑散としていた。13時15分、T路地の稚内天塩線(106号)前の木陰で、朝用意してきたむすびで昼食。ここで、10分位休息する。この道路は、地図で確認したところ、稚内西海岸に沿って続い



利尻礼文サロベツ国立公園 原野

いた。途中、抜海原生花園があった。この道路からの利尻富士の眺めも印象に残るものがあった。ジョギングとウォーキングの併用で進む。14時27分、ノシャップ岬方面に向かっている自転車野郎に挨拶される。

14時32分、利尻礼文サロベツ国立公園があった。14時36分、道端で蛇に出くわす。慌てて、草村に移動。歩いていても歩いていても海岸線が続く。それにしても長い長い海岸線であった。15時、ノシャップ岬方面と稚内市街への分岐点に到達。稚内市街への道路は、山間に向けて急なスロープであった。15時8分、白い鳥居があった。この道路からノシャップ岬への道路がはるか下に見える。15時20分、熊出没(平成27年5月20日)の注意看板を目にする。

15時11分、トイレ休憩場に立ち寄る。ペットボトルが空になるが、抜海駅からコンビニや自動販売機は

一切なし。この休憩場には、残念ながら、自動販売機はなかった。喉がからからで進む。15時32分、モダンな住宅街が見えて来る。



南稚内駅への路

15時50分、やっとセイコーマートがあり、水分を補給。16時16分、南稚内踏切を横切り、鉄道の右側を歩く。その先に南稚内駅(16時25分)到着。ウォーキングとジョギングの併用であったため、所要時間は、10時間を切った。嬉しい限りだ。早めにホテルについたので、ゆっくり湯船につかり、ホテル近くの甚八(18

時)で夕食を摂る。生ビールを飲みながら、お任せ定食(1,300円)は最高であった。ただ残念なこともあった。それは、長年愛用したIpodの紛失が事実となったこと。心当たりを問い合わせたがなし。本日の営業キロは、40.8km、万歩計を持参しなかったため8万歩とする。本日は、初めてウォーキングとジョギングの併用でいい汗をかくと同時、今後の歩き方に大きな自信を得る一日であった。



南稚内駅